

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第2回上越市子ども・子育て会議

2 議題（全て公開）

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

ア 令和8年度当初予算案における子育て支援に関する事業について

イ 教育・保育施設の利用定員について

ウ 上越市こども計画における「乳児等通園支援事業」に関する切れ目のない支援について

エ 高田幼稚園の預かり保育の拡充について

オ その他

3 開催日時

令和8年2月20日（金）午前10時から午前11時10分まで

4 開催場所

上越市役所木田第一庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：安藤会長、大久保副会長、北原委員、金子委員、荻野委員、青木委員、林委員、池委員、村本委員、山崎委員、中島委員、森岡委員、岡委員、中野委員、福井委員
- ・ 事務局：こども・子育て部 宮崎部長
こども家庭センター 牛木所長、長嶺統括保健師長、荒木副所長、齋藤主事
- ・ 関係課：幼児保育課 伊倉副課長、田中係長

こども発達支援センター 福田所長、星野副所長
総合政策課 石黒課長、佐野主任
幼児保育課 伊倉副課長、田中係長
こども発達支援センター 福田所長、星野副所長
産業政策課 池田課長
学校教育課 古川副課長、小池管理指導主事
社会教育課 加藤参事

8 発言内容

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事

ア 令和8年度当初予算案における子育て支援に関する事業について

荒木副所長：資料No.1により説明

安藤会長：資料にある事業のうち、令和7年度予算と比較して令和8年度予算が少なくなっている事業もあるが、新規、拡充分の金額の見方について補足してほしい。

荒木副所長：令和7年度及び8年度に記載されている予算額は事業全体の予算額である。事業概要中には、新規または拡充した分の額としてカッコ書きで記載している。

大久保副会長：No.14の「医療的ケア児の一時保育支援事業」について、概要を説明してほしい。

福田所長：医療的なケアが必要な低年齢のお子さんは、体調が変化しやすいため、集団保育ではなく、在宅での育児が中心となるケースが多い。定員は1名と限られた枠ではあるが、母子保健担当と連携し、低年齢の医療的ケア児に特化した一時保育を実施することで、保護者の育児負担の軽減を図る。

大久保副会長：医療機関での一時預かりとなるのか。

福田所長：こども発達支援センター内での受け入れとし、主治医の指示を受けつつ、看護師と保育士の2名体制で実施する方向で考

えている。

大久保副会長： No.22 の「介護員配置」について、学校看護師の確保状況はどうか。

古川副課長： 欠員などが生じた場合は、随時、ハローワーク等を通じて募集をしたり、日々雇用の看護師にも協力を依頼している。

金子委員： 専業主婦（主夫）家庭への経済的支援については、今後実施するつもりはあるか。

牛木所長： 経済的な支援の検討は現時点ではしていないが、家庭訪問などの相談支援を実施している。

金子委員： 所得を得るために働きに出ると子どもと過ごす時間が少なくなり、それが結果として子どもの心の育ちに影響してくる。心の育ち方も重要視されているので、今後の事業計画の際に検討してほしい。

宮崎部長： 今後の経済的な支援に関しては未定であるが、財政状況や現在実施している子育て支援も含めて総合的に勘案して、専業主婦（主夫）家庭に対しても気を配れる体制を検討していきたい。

中島委員： No.26 中、「プレコンセプションケア研修会の実施」について、具体的な内容は決まっているか。

長嶺統括保健師長： 令和 8 年度は、プレコンセプションケアの概念を普及させるため、研修内容は助産師会等で実施されている既存の講座も踏まえ、関係機関等とも相談しながら効果的に進めていきたい。

山崎委員： 特別支援学級に在籍せず、通常学級の中でも支援が必要な児童が増えているが、そうした児童を対応する人手が不足していると感じる。

小池管理指導主事： 財政状況を考慮しながら最大限職員を配置しているが、免許所有者の不足もあり、今後は事務補助員等の活用も必要と認識している。

岡委員： 通常学級の中でも支援が必要な児童を対応する支援員が必要

である。

また、私は「働くママ」の一人であるが、仕事が好きで働いており、子どもも喜んで保育園に通園しているので、そうした家族がいることもお伝えしたい。

小池管理指導主事： 前段の意見は、人的な部分での支援を充実させてほしいという意見かと思う。学校と教育委員会が連携して、インクルーシブ教育という視点も考慮しながら、安心して過ごせる学校づくりに取り組んでいく。

林委員： 学校現場の状況としては、支援が必要な児童への対応は教員免許を所有している人が行うが、免許を所有している人の絶対数が足りていない。児童への対応により事務作業等が滞ってしまい、結果的に長時間勤務も増える。

学校現場としては、少ない勤務時間数でも良いので、事務作業等をサポートする職員が配置されると非常に助かる。

安藤会長： 学校事務職員やスクールサポートスタッフへの手当は現状維持の予算という認識でよいか。

小池管理指導主事： スクールサポートスタッフの配置について、令和7年度同様、12名配置を予定している。

北原委員： 自分自身、頻繁に学校のボランティアに参加しているが、仕事をしている保護者も多く、ボランティアに参加する人がかなり減っている。学校職員の人手不足がある中で、そういった存在は非常に重要だと思う。

小池管理指導主事： 学校現場としても、そうした支援をしてくださる方が増えると非常に助かる。

学校運営協議会や PTA が中心になって、学校に協力いただける方を増やす取組も必要と感じている。

イ 教育・保育施設の利用定員について

田中係長：資料2により説明

(意見・質問なし)

ウ 上越市こども計画における「乳児等通園支援事業」に関する切れ目のない支援について

田中係長：資料3により説明

(意見・質問なし)

エ 高田幼稚園の預かり保育の拡充について

古川副課長：資料4により説明

青木委員： 拡充後の利用状況はどうか。

古川副課長： 2～3名の利用があり、希望者には対応できている。

青木委員： 今回の拡充により高田幼稚園の入園申込者数に変化はあったか。

古川副課長： 拡充の影響の有無は分からないが、一定数の方からは入園の申込は受けている。

オ その他

荒木副所長： 子ども・子育て会議委員の改選について

9 問合せ先

こども・子育て部こども家庭センター企画管理係

TEL：025-520-5725（直通）

E-mail：kodomo@city.joetsu.lg.jp